

# ホームページの刷新にあたり

校長 穴戸 章子

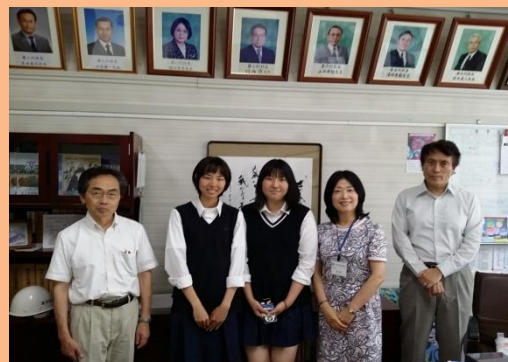
神奈川県立深沢高等学校のHPをご覧いただきありがとうございます。

この度、昨年からの懸案事項であった学校HPの刷新がようやく叶いましたので、トップページに「社会に生きる学力」「自尊感情」という言葉を掲載した意図と、今年度の取り組みの進捗状況について説明させていただきます。

「社会に生きる学力」を身につける

これまでの指導要領の改訂は「何を学ぶか（何を教えるか）」すなわち、学習内容の変更が話題の中心でしたが、来年度改訂される新しい学習指導要領では、「何ができるようになるか（学びを人生や社会に生かす力、生きて働くための知識・技能、未知の状況に対応する力）」及び「どのように学ぶか（主体的・対話的で深い学び）」という視点が入った大きな改訂となります。それは2030年に予測される、少子化の克服や格差の是正、グローバル化された時代の経済成長等の課題を、教育の力で解決してほしいという、国民・企業からの強い要望に基づいたものであり、ここ数年例を見ないほどに学校教育の果たす役割が重要視されていると感じます。

本校では昨年度までの三年間「確かな学力向上研究推進指定校」として研究を続けてきましたが、今年度は、生徒自ら自分の学習方法を見直すという、まだ県内の高校ではどこも導入していない「学習法講座」を東京大学との連携でおこなっています。また、新しい時代に必要な英語力の向上のため、1年生全員が英語の検定試験G-T E Cを受験することとし、従来のLL教室を、アクティブラーニングの中心となるプレゼンテーションやグループ学習向けの部屋となるよう改装しています。1日の家庭学習時間を増やす取り組みや、大学受験者用の継続的な補習も始まっています。もともとシチズンシップやボランティア教育がさかんである本校ですが、今年度はさらに、社会に出てどのような力が必要となるかを生徒自身が気づけるように、1年生全員が夏休みにイターンシップをおこない、地域の事業所の方々にお世話になりました。



関東大会に出場したライフル射撃部の生徒、顧問、副校長と 校長室にて



今年も公立高校トップの成績を残した男子テニス部 試合終了後の記念撮影

深沢高校では、次期指導要領の改訂を視野に入れ、卒業後数年ばかりでなく、社会に出てから必要となる資質・能力を意識し、学習の目的やプロセスに着目した指導をしております。

また、学力向上の大前提になるのが、「自尊感情 self-esteem」です。

自己肯定感 self-affirmation や自己有用感 self-efficacy という言葉も耳にされていると思いますが、私はより広い意味で使うために、自尊感情という言葉を選んでいきます。自尊感情が高い人は、他人からの批判や不安感に負けず心が安定しています。自分の将来を信じる力が強いので、人から言われなくても、自ら高い目標を立てて粘り強く努力することができます。それはキャリア教育における自己実現への意欲にも大いに影響をもたらします。20年前私が米国でカウンセリング学を学んでいたころ、教師がまずすべきことは、生徒たちの自尊感情を高めることだといわれていました。よく日本の子供たちの自己肯定感が諸外国に比べて低い（日本人のもつ謙虚さを考慮しても低い）ことが話題になりますが、つい他人の子と比べたり、偏差値にこだわってしまう我が国の風潮のせいであるかもしれません。高校生には、確かな根拠を持って具体的にほめることが必要です。

昨年、創立 30 周年を機に、活躍する卒業生や創立当初の地域の方々の想いを知り、小規模校ならではの生徒同士の仲のよさや、学校行事を大切にしている校風を再認識することで、「FUKASAWA PRIDE」が何たるかを皆で共有することができました。また、様々な年齢層の方々と交流をするボランティア活動・シチズンシップ教育を通じて、自分が地域から期待される人の役に立つ存在であることを改めて気づくという、成長期の人格にとって欠かせない活動も長年積み重ねて参りました。県下で最も多い学校行事を実施する本校の生徒には、各行事の目標と評価をきちんと示していきたいと考えています。

新しい時代に必要とされる学力の向上のために邁進し、生徒が活躍する場面を増やし、評価の方法を工夫することを意識して、秋から冬への教育活動を展開してまいります。

平成 28 年 12 月 1 日



文化祭でALTのSHIMO先生とポーズをとる生徒